

令和4年度 実施事業の概要

施設名 : 国立妙高青少年自然の家
教育事業名:プログラム体験会 冬
期間 : 令和5年1月13日(金)
対象及び参加人数: 自然体験活動や青少年教育に興味関心をもつ大学生・青少年教育指導者・学校教員 その他 8名
目的: 利用団体の引率者等の研修の機会とし、妙高のフィールドや身近なフィールドでの指導技術の向上を目指す。また、自然体験指導者としてのスキルアップを図る。
事業概要: 上記目的のため、事業を実施し、8名(大学生4名、社会人4名)が参加した。 スノーシューハイク・雪あそび(雪上運動会)に分かれてプログラム体験を実施した。それぞれの指導者は、以下のとおりである。 【スノーシューハイク】: 関本 真一 氏(NPO法人妙高山麓自然体験活動指導者会 MNP 部) 【雪あそび(雪上運動会)】: 蟹江 真耶・村松 研一(国立妙高青少年自然の家 職員)
成果: 妙高の冬のプログラム体験ということで、スノーシューハイクと雪あそび(雪上運動会)を取り上げ実施した。スノーシューハイクでは、冬越しする木の芽や動物の足跡などから、植物や生き物について学んだ。見る、触る、嗅ぐなど様々な体験を通して理解を深めた。途中、雪で遊ぶ活動も取り入れ、楽しみながら活動した。 雪あそび(雪上運動会)では、仲間と協力しながら、体や道具を使って、雪の特性に触れることができた。バリエーションの工夫や安全面での配慮について学ぶことができた。 実際に体験を通して、参加者は、妙高の自然体験活動に対して興味をもつとともに、今後の活動に生かしていきたいと意欲を高めていた。
スノーシューハイクの様子

雪あそび(雪上運動会)の様子

課題: 新潟県内の小・中学校にメール配信、1月～3月の利用団体に郵送で、事業の開催要項とチラシを広報した。しかしながら、思ったよりも参加者が少ない結果となった。ホームページでも情報を公開しているが、興味関心のある方に情報を届ける方法について検討が必要である。